

環研センターNEWS

令和7年
8月号

編集発行

山形県環境科学研究所

〒995-0024 村山市楯岡笛田3丁目2番1号

TEL 0237-52-3124

FAX 0237-52-3135

山形県の
環境情報は
こちら！



ほっと NEWS



水生生物による水質調査 参加者募集！



川にすむ生きものを調査することで、その川のきれいさがわかる「水生生物による水質調査」を学校や子供会、地域団体から個人まで、多くの皆さんから協力いただき、実施しています。そして、年度末にはみなさんの調査結果を1年分まとめて「河川水質マップ」(右上図)を作成し、参加者や学校等に配布しています。



今年度もたくさん申込がきていますが、まだまだ参加者を募集しています！

近くの川に行って、冷たい川の水に触れて、隠れた生きものを探して、楽しく水環境や生きものについて学んでみませんか？

誰でも簡単にできる調査です。個人でも団体でも、お気軽にお申込みください。

身近な自然に接することで、皆さんの環境問題・環境保全への関心がより深くなることを期待しています。

調査に興味はあるけれど、調査のやり方がわからない…生きものの判別ができない…など不安のある方は、「職員出前講座」をご活用ください！調査方法の説明、生きものの採取・判別など、幅広くサポートします。団体だけでなく、個人の方でも出前講座の申込は可能ですので、どうぞお気軽にご相談ください。



調査期間：令和7年10月17日(金)まで
申込先：環境科学研究所 環境企画部

※詳しくは下記の二次元コードにアクセスするか「山形県 水生生物調査」で検索してください。

調査方法の
解説動画
(YouTube)
はこちら↓

水生生物調査・
出前講座の申込
(県ホームページ)
はこちら↓



ゲンジボタルを発見！



サワガニはいつでも大人気！



事業
報告

親子で楽しむ環境科学体験デーを開催しました



山形県環境科学研究センターでは、6月の「環境月間」の行事として、平成16年度から「親子で楽しむ環境科学体験デー」を開催しています。今年度は6月14日（土）に第1弾となる「自然観察会（春の部）」、第2弾として6月21日（土）に「センター一般公開」を行いました。

○自然観察会（春の部）

自然観察会は、やまがた百名山の「楯山」を舞台に、午前の部、午後の部2回実施し、9組24名の親子が参加しました。

出発前にセンター内で「気候変動」や「生物季節」を勉強した後、楯山へ出発！植物や生き物の観察をしながら、葉の手触りや匂い確かめたり、クワの実を食べたり、自然の音を聴いたり五感で楯山の自然を満喫しました。午前の部では、遠くにカモンカを見ることができ、参加者から歓声が上がりました。

時折雨も降りましたが、発見も多く、充実した時を過ごすことができたようで、参加者からは「楽しかった」、「また参加したい」との声を多くいただきました。



カモンカ発見



アカネズミが食べた木の果実つけた！



記念撮影

○センター一般公開

近年は事前申込制で実施していましたが、今年度は全ての催しについて令和元年度以来となる自

由参加制で実施し、昨年度を上回る69組195名の親子が参加しました。

当日はスライムやバスボム、虫よけスプレーを作るコーナーや、白い粉を試薬を使って判別したり、黒色のインクをろ紙を使って色分けしたりするなどの科学実験を体験できるコーナーで、参加者は参加者は興味のあるコーナーで色々な体験をして、科学の楽しさに触れていました。

また、水生生物コーナーでは石の裏にいる生き物や水生生物の標本に興味を示したり、発電実験コーナーでは夢中になって発電実験器を回す子ども達の姿も見られました。

リサイクル工作のコーナーでは、作るだけでなく、作品を使った体験（エアカーリング、空気砲）ができ、特に空気砲では的が倒されるたびに大変盛り上がりました。



スライムづくり



水生生物観察



空気砲

○最後に

「親子で楽しむ環境科学体験デー」参加者の皆様には親子で様々な実験・体験をしていただき、「親子で楽しめた」、「また参加したい」との声が多く聞かれたところです。今回のイベント参加が、自然や環境、科学に関心を持つきっかけになればと思います。多数の御来場、ありがとうございました。

令和7年6月10日から12日までの3日間、村山産業高校から2名の生徒が、当センターで行っている環境調査や啓発に関する業務を体験しました。12日には水環境部での実習が行われ、排水中の汚れの度合いである化学的酸素要求量（COD）や、有害物質である六価クロムの測定といった水質分析に挑戦しました。白衣とゴム手袋を身につけた生徒たちは、実験器具や試薬を使いながら、真剣な表情で分析作業に取り組んでいました。

CODの分析では、実際の工場排水を想定して模擬試料を作成し、薬品を加えて反応を進めました。試料の色が紫から透明に変化していく過程を観察することで、酸化還元反応の進行を視覚的に捉えることができ、化学反応の仕組みを具体的に理解する体験となりました。

六価クロムの測定では、分光光度計という装置を使って、試料の色の濃さを測定し、それをもとに水に含まれる六価クロムの量を調べる工程を

体験しました。普段の授業では触れることのない本格的な分析機器に、生徒たちはやや緊張しつつも、丁寧に作業を進めていました。

実習後のふりかえりでは、「水質分析って地味だけど奥が深い」「環境を守る仕事の大切さがよく分かった」といった感想が聞かれました。今回の体験が、科学や環境への関心を高めるきっかけとなることを願っています。



これは、研究員「タイッキー」と、水の研究員「スイッタン」さんの、ある日の会話です。

○雨がもたらす恵みと災い

スイッタン：この前、センターの近くにある最上川三難所に行ってきましたんだ。

タイッキー：基点、三ヶ瀬、隼の三カ所だね。

スイッタン：うん。7月は記録的な少雨だったから水位が気になって。やはり川底の岩礁が…。

タイッキー：おお、見えるね。これは地形好きには、たまらん光景だあ。

スイッタン：いやいや、喜んでる場合じゃないよ。水がないとダムやため池などに水が溜まらないし、農業や水道の取水などに影響がある。

タイッキー：そうだった。

スイッタン：通常、川の水には雨水のほかに生活排水も

含まれるんだけど、雨水が少ない分、生活排水の割合も高まってくるんだ。

タイッキー：そうか、生活排水が汚れていると、川の水質への影響が大きくなるんだね。

スイッタン：自宅に浄化槽があるなら、保守点検、法定検査の内容を再度確認してほしいなあ。

タイッキー：そういえば、我がセンターにも三難所があるよね。階段、暑さ、測定機器の故障。

スイッタン：……。



左から最上川三難所（村山市）の「基点」「三ヶ瀬」「隼」（令和7年8月上旬）

各部
紹介

環境化学部



環境化学部では、ダイオキシン類対策特別措置法及び廃棄物処理法に基づき、ダイオキシン類による環境の汚染状況に関する調査（常時監視）、ダイオキシン類の発生源検査（排ガス、排水など）を行っています。また、放射性物質検査や環境放射能水準調査（原子力規制庁委託事業）、化学物質環境実態調査（環境省委託事業）、水環境中の有機フッ素化合物存在状況調査等の調査研究を行っています。

○ダイオキシン類による汚染状況に関する調査

ダイオキシン類は強い毒性があり難分解性で生物へ蓄積されやすい特徴があるため、法律で環境中のダイオキシン類の汚染状況監視が定められており、大気、公共用水域（河川、湖沼、海域、地下水）の水質と底質、発生源周辺の土壌について年に約20地点で調査をしています。

例えば河川水のダイオキシン類の調査では、1検体につき3L瓶12本分の水を採取し、ダイオキシン類を抽出しクリーンアップ操作をして妨害物質をしっかりと取り除き、20μLまで濃縮して測定機器（GC/HRMS）で測定します。

調査結果は、県民の皆様が安心して生活できるよう、県のホームページ等で公表しています。



高分解能ガスクロマトグラフ質量分析装置(GC/HRMS)

お知らせ



クーリングシェルターと給水スポット



先月号でお知らせしたとおり、当センターは危険な暑さから避難できる場所「クーリングシェルター」として指定されています。熱中症予防のために環境情報・自然環境棟を開放しておりますので、ご活用ください。

開放可能日 : 月曜から金曜日（開館日）
 開放時間 : 9時から17時
 受入可能人数 : 10人

また、環境情報・自然環境棟にはマイボトル用給水器が設置されています。誰でも無料で利用できますので、ぜひマイボトルをご持参いただき、涼しい場所での休憩・水分補給にご活用ください。



編集後記

今月の表紙【蔵王のお釜@2025年】

夏休みも終わりの時期になりました。夏休みの宿題といえば自由研究ですが、自由研究はいつでも誰でもできるものです。いつも不思議を探して生活していると、普段の生活もちょっと違って見えることがあるかもしれませんね。

（自由研究の宿題は早めにとりかかろう！）

環境教室受付中！

- ・リサイクル工作
- ・水の汚れしらべ など



山形県 環境教室

検索

